

社協から 今月のお知らせ



ひきこもりサポーター養成連続講座

日時	内容・講師
9月18日(水)	内ひきこもりって? 講 高防 美智子さん(岡山県立大学 准教授)
9月25日(水)	内守山市の現状～アウトリーチ支援～ 講 市生活支援相談課 職員
10月 9日(水)	内ひきこもり支援の実践報告 講 若者自立支援居場所の会「レリーフ」、 市社協ひきこもりサポーター
10月17日(木)	内つながるための聴き方 講 宮脇 宏司さん(公認心理士・ふおりせ心理 ストレス相談室 代表)

時 午後1時30分～3時(10月17日は午後3時30分まで)
所 市民ホール 学習室1
対 受講後、サポーターとして活動できる人 定20人
申 9月11日(水)までに電話またはファクスで下記へ
申し込み。

守山市社会福祉協議会

☎・☎(583)2923 FAX(582)1615
✉fukushi@moriyama-shakyo.or.jp



守山市
社会福祉協議会
ホームページ

ひきこもり一斉電話相談

県内の参画団体による一斉電話相談を実施します。ひきこもりに関する、あらゆる相談を受け付けます。社協だけで解決できない場合は専門機関につなぎます。
時 9月12日(木)、13日(金)午前10時～午後6時
相談専用ダイヤル ☎(584)5282



ある社会福祉士のひとこと



9月1日(日)は防災の日 避難所運営ゲーム(HUG)

防災の日は、防災意識を高め、訓練などを通じて「いかに迅速かつ円滑な避難ができるか」を確認する日です。1月に発生した能登半島地震のこともあり、今まで以上に認識と行動力を高める必要があります。

社協では、出前講座で「避難所運営ゲーム(HUG)」を実施しています。静岡県が開発したもので、個人の年齢などの情報が書いたカードを避難者に見立て、平面図で避難所となる体育館などを表し、いかに適切に誘導できるか、また避難所で起こるさまざまな出来事にどう対応するかを疑似体験するゲームです。ぜひ自治会などの勉強会でご利用ください。

美術館から子どもたちへ

佐川美術館「アートコラム」84

学芸員 佐川美術館
藤井 康憲



夏も終わりに近づきつつありますが、各地の美術館では夏休みにあわせて、子ども皆さんが楽しめるワークショップや昆虫、鉄道、恐竜などなじみ深いテーマの展覧会が行われています。

美術館でこのような取り組みがなされるのも、子どもの豊かな感性を育てる「情操教育」を見据えていることです。

佐川美術館では、夏休み前に守山市の小学4年生を対象に、「平山 郁夫の日本画作品、佐藤 忠良のブロンズ像を「見て」「触れて」鑑賞する芸術鑑賞教室を実施しました。鑑賞後に作品を見ながら美しいと感じた色彩をもとに、平山作品をモデルにした砂絵の制作にもチャレンジしています。

このイベントで私たちが最も大切にしているのは「本物に触れること」です。作品の色鮮やかさや質感は、本物を実際に目にするのでしか味わえません。教科書やカタログに掲載された作品写真では味わえない感動が美術館にはあります。この感動こそが情操教育には欠かせません。

小学校での美術作品鑑賞に対する関心は、当時の研究者により『小学校に於ける絵画鑑賞教授の原理と実際』という著作が発表された、大正後期(ころ(1918~1925))に始まりました。その後昭和16年(1941)には教材も発行され、広く授業で導入されるようになったといえます。

時代と共に形を変えながらも、美術館が子どもの教育に欠かせない一つの場として役割を果たせるように、佐川美術館ではさまざまなイベントを企画していきたいと思えます。

※開館情報は、佐川美術館ホームページでご確認いただくか、電話☎(585)7800]でお問い合わせください。